

世界のオレンジ市場(抜粋・要約)

[FreshPlaza 2024年4月19日](#)

北半球の冬の寒さが和らぐと、恒例の南半球のオレンジ産地への切り替えの時期でもある。

柑橘類の主要生産国であるスペインでは良いシーズンであったと言われているが、終盤にかけて価格が下がり、一方昨年よりも出荷が少し長引くだろう。スペインの関係者らは「ヨーロッパ市場はスペインのオレンジを高く評価しているが、その対価を払いたがらない」という現実をまたしても嘆いている。彼らはまた、エジプト産の低価格で品質の低いオレンジが、自国を含むヨーロッパ市場にあふれていることに不満を漏らしている。

世界第2位の生産国である南アフリカは、主要市場であるヨーロッパがエジプト産とモロッコ産のオレンジでいまだに一杯になっていることを注視している。この2カ国の果実は紅海での武力攻撃の影響でアジア市場への輸出が困難になったため、多くがヨーロッパに行先変更された。

米国のカリフォルニア州産ネーブルオレンジは、出荷シーズンの終わりまで大玉が出回る。雨は、残りのネーブルのサイズを大きくするのに役立った。メキシコ産のバレンシアオレンジは、カリフォルニア州産のネーブルオレンジよりも平均約20%安く売られている。

南米に目を向けると、ウルグアイのある輸出業者は、供給したいと願っているオレンジが世界的に不足していることに着目している。アルゼンチンの北東部では、2024年シーズンは生産量の増加と品質の向上により、昨年に比べて出荷量の増加が見込まれる。ペルーは主に国内市場向けにオレンジを生産しており、輸出はほとんど期待されていない。

中国国内のオレンジ生産量は、天候に恵まれた四川省に牽引され、ほぼ倍増した。輸入業者らは、主に紅海での武力攻撃によって引き起こされた輸送の遅延の結果として、エジプト産オレンジの品質を懸念している。アメリカ産オレンジの入荷は、この期間の予想を下回り、販売価格は昨年より10~15%高くなっている。

ドイツ市場では、スペイン産を筆頭に、数カ国からの供給が見られる。ギリシャ産の柑橘類の輸入は近年重要性を増しており、かなりの競争が繰り広げられている。ギリシャは、欧州市場での熾烈な競争に対処しなければならない一方、国内生産は減少している。

トルコ産の需要は増加しているが、紅海危機の影響でアジアへの供給が妨げられている。一部の輸出業者は契約をキャンセルし、アジア市場への積み込みを完全に停止せざるを得なかった。

イタリアでは、果実のサイズが小さく、生産量が増加したため、シーズン中のほとんどの期間で価格が低かった。4月には価格が上昇したが、今度は国内需要の減少と販売の鈍化につながっている。オランダでは、オレンジの市場の動きが鈍い。

エジプトは、バレンシアオレンジの出荷シーズンの初めに始まった紅海危機により、アジアにほとんど輸出できなかった。この結果、欧州等への供給が増加した。外貨準備の減少に伴う通貨危機は、エジプト通貨の切り下げにつながった。これは輸出業者の損失を軽減するのに役立つが、コストは逆に増加する。

モロッコでは、干ばつのため生産量が少なく通常どおり小玉が多い。オレンジの輸出は始まったが、ヨーロッパ市場ではエジプト産、トルコ産、スペイン産があふれ、競争が激しい。中東地域への輸出は、地政学的な状況により輸送の困難と遅延に直面している。輸出業者らは、品質は良く生食用にも果汁用にも向くと言う。

オーストラリアのこれまでの生育状況は、ほとんどの産地で近年と比較して良好である。2022年と2023年のシーズンは寒くて雨の多い天候の影響を受けたが、今シーズンはほとんどの産地で暖かい天候が長く続いている。ただし、一部では地域的な洪水、干ばつ等の影響が見られた。